

# 共助社会づくり支援事業

■ネーミング事業 1件  
■一般枠 3件

NPO法人が実施主体となり、市町村や自治会、社会福祉協議会、任意団体などと3主体以上で連携し、地域課題を解決するために取り組む助成事業です。

ネーミング名	地域密着の住まいづくりファイブイズホーム共助社会づくり支援事業
事業名	コロナ時代の地域観光を考える～川越・前橋・横浜 絹の道WEBサイト作り
法人名	特定非営利活動法人 川越きもの散歩【川越市】



連携団体名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市観光課</li> <li>・さいたま絹文化研究会</li> <li>・NPO法人街・建築・文化集団（前橋）</li> <li>・横浜歴史資産調査会</li> </ul>
活動内容	<p>きものを次世代につなげる。親子きもの体験の開催や毎月28日の「川越きもの散歩」の開催など川越を基盤に活動、また各地でのきもの散歩を開催しています。</p> <p>それに加え、きもの格差の解消を目指し、児童養護施設出身の若者に振袖を着せる活動をしています。</p>
事業取組	<p>川越のシンボル「時の鐘」の再建費用は横浜の生糸商が多額の寄付をしており、前橋市に川越藩士が日本で初めての製糸工場を作るなど「絹文化ゆかり」という共通のテーマをもつ前橋・川越・横浜の3都市のつながりを発信するWebサイトを作成しました。</p> <p>遠方から顔の見えない多数の観光客の誘致ではなく、「絹ゆかり」の歴史、文化を知ること、交流人口を増やしまちづくりや地域活性化に寄与することを目的としました。</p> <p>英国人きもの研究家シーラクリフさんによる英文コラムも掲載しました。</p>
事業成果	<p>地元の人にも知らない3都市の絹つながりを、シーラクリフさんと取材することで掘り起こすことができました。川越記者クラブで会見し、朝日、読売、東京、上毛新聞、ヤフーニュース、英文サイトなどで紹介されました。</p> <p>コロナ終息後は3都市でのきもの散歩、川越でのミニフォーラムの開催を予定しています。</p>

総事業費	569,312 円	助成額	500,000 円
------	-----------	-----	-----------

一般枠	
事業名	にほんご がくしゅう きょうしつ
法人名	特定非営利活動法人 日本語教育ネットワーク【川越市】



連携団体名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市国際文化交流課</li> <li>・川越市社会福祉協議会</li> <li>・自治会</li> <li>・民生委員</li> <li>・児童委員</li> </ul>
活動内容	<p>「日本語教育ネットワーク」は令和2年1月から次の3つの柱で元気いっぱい活動しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域の外国人に日本語教育と生活相談等を行う。</li> <li>②小中高の公教育現場に入り外国人生徒に日本語やクラス適応等のサポートをする。</li> <li>③きめ細かい日本語教育のスキルや多文化共生の理念を持つボランティア講師を育成する。</li> </ol>
事業取組	<p>川越市内の自治会館で週に2回夜2時間、地域の外国人にアピールして日本語教室を開きました。講師には地元で密着した民生児童委員もいて日本語教育はもちろん、地元の病院情報など多様な困りごと相談にも対応できました。</p> <p>日本語学習に関しては学習者に様々なレベルやニーズがありテキスト選定から手さぐりしました。児童の場合、時にはトランプをしながら言葉を引き出したり、あらゆるチャレンジをして関係づくりを試みました。</p>
事業成果	<p>地域における外国人の様々な困りごとや日本語習得のレベルがリアルにわかったことが最大の収穫です。特に日本語習得が全くなされないまま学校生活を送っている生徒たちのサポートに関して市の国際協力課や県の教育委員会と協力して今後委託事業として全力で行っていきたくと思っています。</p>

総事業費	557,769 円	助成額	500,000 円
------	-----------	-----	-----------

## 一般枠

事業名 埼玉産小麦を使用した県立高校オリジナル商品開発による地元活性化事業

法人名 特定非営利活動法人 くまがや小麦の会【熊谷市】



## 連携団体名

- ・熊谷市役所農業推進課
- ・北部地域振興センター
- ・熊谷市内県立高校8校
- ・八木橋百貨店
- ・地元製造業者

## 活動内容

熊谷商工会議所女性会の有志で熊谷市のまち起こしを進める中、生産量本州1位を誇る「熊谷の小麦粉」をアイテムとして製品の開発、販売を通じて町の活性化に働きかけようと、市民活動団体「くまがや小麦の会」として平成18年に発足し、その後NPO法人、認定NPO法人となりました。ソーシャルビジネスとして地域企業との提携、ボランティア活動、地域の文化・芸術を応援しています。

## 事業取組

小麦を使ったうどん文化は古くから盛んです。熊谷産小麦を使ったスイーツを開発し、令和2年11月3日に「熊谷県立高校スイーツ文化祭」として八木橋百貨店を会場に、7回目の開催を迎えました。令和3年1月16日のイベントはコロナの影響で中止となりましたが、八木橋百貨店の会場でアンケート調査を実施いたしました。

母校の現役学生が直接販売する、母校のオリジナル製品を現役生、卒業生が買い求める交流の場にもなっております。地元への愛着を育ててゆきたいと考えます。

## 事業成果

地元菓子製造業とのコラボで、高校のオリジナル製品を開発して、県立高校が8校もある熊谷に通う学生が地元愛、学校愛を育てる一助としたいです。

総事業費

746,210円

助成額

500,000円

## 一般枠

事業名 北本市の農家と農産物の魅力発信事業

法人名 特定非営利活動法人 北本市観光協会【北本市】

&green CALENDAR  
vol.4

## 連携団体名

- ・北本市産業観光課
- ・北本市農業青年会議所（任意団体）

## 活動内容

「暮らしと場の習慣を観光に」をテーマに、地域に眠っている魅力を、観光資源として捉え発信活用する事業を行っています。全国ご当地カレーグランプリ優勝の「北本トマトカレー」や、市内に残る貴重な雑木林を舞台としたイベントなど、様々な事業に取り組んでいます。

## 事業取組

農家への取材インタビューを行い、農産物のPRを目的とした、広報誌「&greenCALENDAR」を作成。農家や行政と連携したネットワーク構築と、ブランド野菜の発掘と検討を目的とした、「きたももて古来種野菜を探る」ワークショップを開催しました。

事業を通して、農産物のブランド化について、関係者がチームとなって学び、農家取材などのフィールドワークを行いました。

## 事業成果

農家へのヒアリングを行った結果、農産物の魅力発信事業を行ったことで、実際に直売所への来訪者の増加や、反響などがありました。また、ワークショップ事業では、農家取材の結果、実際に代々種取をしている「古来種野菜」が2種類発見されるなど、今後の農産物のブランド化につながる、有意義なサーチと、関係者によるネットワークが構築できました。

総事業費

585,220円

助成額

500,000円